2006 年 12 月 12 日の藤家先生へのプレスインタビュー

2006 年 12 月 11 日~14 日に「原子力材料の進展」に関する国際会議(ANM-2006)が、インドのバーバ原子力研究センターで開催された。その会議の合間にプレス 2 社(Press Trust of India Limited, The Times of India)から藤家先生への取材があり、日印原子力協力、米印の原子力協力協定、核不拡散条約(NPT)についての質問があった。

それらに対して、「(日印原子力協力については)私たちは平和な将来のために、ともにこの課題(原子力の平和利用)について議論し協力することができる。

(米印の原子力協力協定については)米印 2 国間の問題であり、コメントを避けたい。私たちは みんな原子力の平和利用を望んでいる。

(NPT についての質問に答えて)現行の NPT は、その存在価値の大きさの一方でいくつかの問題をかかえている。NPT それ自体がその固有の問題により変わってきており、私たちはそれらを乗り越える方法を見つけねばならない。日本はこれらの問題が解決され、原子力の平和利用のために明るい未来をもてることを希望している。私たちは科学者であり、5 つの要素(エネルギー生産、燃料製造、システム安全、長放射性核種の短寿命核種あるいは安定同位体への変換、核拡散抵抗性)もつ技術を開発している。NPT の課題は政治的解決を求めているのは否定できない。これ等は理性的に解決されるべきで、問題は解決するために存在し、複雑にするためにあるのではない。」

との藤家先生からの回答があった。この記事は、翌日(13 日)のインド国内のいくつかの新聞(主要新聞の一つである "The Hindu"や"Outlook India. Com"等)で紹介されていた。

